

タイトル

『fairy girl』

B.S



製作にあたって

花の上にちょこんと座っている『花の妖精』—可愛らしく、幸せを与えてくれる妖精—そんな妖精からイメージする服を作りたいと思います。

中でも春らしい『サクラ』の花の妖精をイメージして、ほんのり可愛いピンクとイエローを使った素材を希望します。

ベースになる素材は、妖精の羽根を表現するため、しぼなどで立体感のある生地にしたと思います。一方、ソフトで繊細な妖精を表現できるように、花モチーフのニットレースで理想の妖精に近づけたいと思います。

Image



F.S



当初のイメージとの比較

当初は花のレースのみを考えていたのですが、作品を作るにあたり、土台の生地が必要ということで2つ素材を作って頂きました。

花のレース生地はイメージ通りに仕上がっていたのでとても良かったです。土台の生地は私のイメージ以上で感激しました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

染色工程では自分の手で染めさせて頂き、初めて経験したことだったので、どのようになるのかイメージできなかった部分もあり苦労してしまいましたが、仕上がったものは良いものになりました。

■協力／川村ニット(株)、日本化繊(株)、
(株)カネヒサニット、山勝染工(株)、
南海ニッケヤーン(株)



■混用率／W 85, N 15

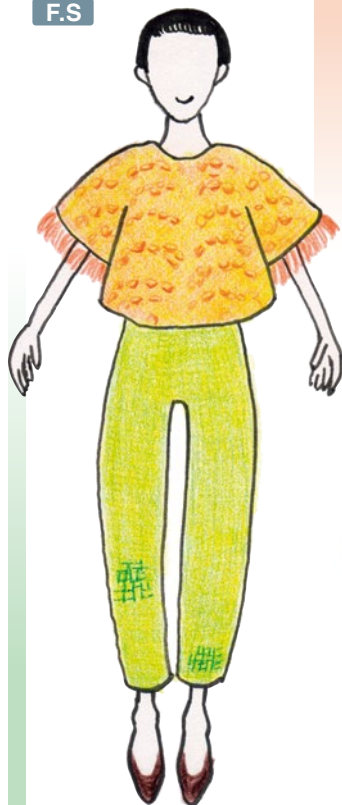


■混用率／W 96, Pu 4

タイトル

[稲の収穫]

F.S



製作にあたって

昔から稲が成長していく様が大好きで、青々しい葉から徐々に稲穂がたれていくのを見ていくと、「自分も稲穂がたれるまでには成長していよう」とよく稲と背比べをしていたものでした。また、日本人にとって米は欠かせないもので、秋の収穫には大変大きな喜びがあり、太古の昔から日本人のDNAに「米」は欠かせないものと感じ、テーマを「稲の収穫」にしました。また翔工房に参加することで自分自身も大きな「収穫」を得たいです。トップスは収穫時の稲穂を表現しています。今にも零れ落ちそうな稲穂を地場産業のウールで表現したいです。生地自体は厚く、ふっくらとしたボリュームな感じにしたいです。パンツは収穫時の稲の葉を表現しています。本物の葉が織られているようにしたいです。質感はやや厚く、ツルつとさせたいです。

Image

B.S



↑
TOPS の柄イメージ
稲穂の1粒1粒を立体的に表現したい。地場産業のウールを使いたい。
お米のつやと色は、水の1割程、かつウールにはるかに感じたい。
↓
パンツのイメージ
稲の葉が実際に織られている感じ。稲葉はツルツルとした感じにしたい。
生地。

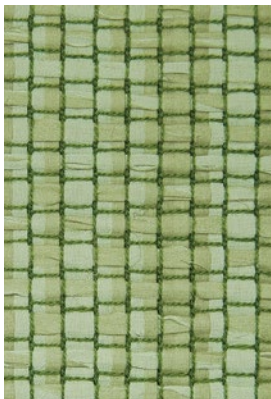
当初のイメージとの比較

トップスの生地は稲穂のイメージで、ぶくぶくした感じのイメージでした。完成したものはイメージ以上の仕上がりで感動しました。

ボトムスは稲の葉のイメージで、葉が織ってあるようなイメージでした。いろいろな問題がありましたが、こちら予想以上に出来上がり良かったと思いました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

イメージを伝えることの重要さと難しさがわかりました。また尾州の技術の高さや世界が尾州の織物を求めていることを肌で感じることで良かったです。



タイトル

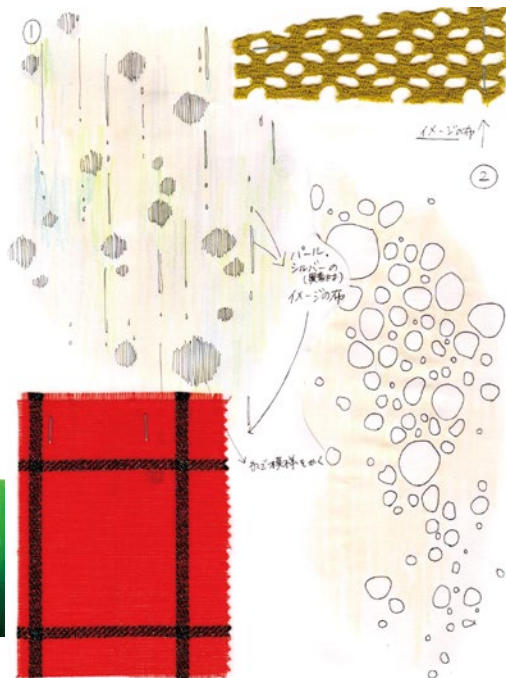
【炭酸水】

製作にあたって

①ウール生地のかささと、麻の張り感をミックスし、プリーツのラインが生えるような布地を目指したいです。布地の色味はパールやホワイトシルバーのようなイメージで、炭酸水の泡のキラキラした輝きを、シルバー系の異素材を布に織り込むことで表現したいです。ベースの布とは、異なる素材で微かにわかる丸をランダムに描くイメージです。

②レースよりも厚めの生地で丸の大きさは一定ではなく大小さまざまな大きさで表現したいです。丸と線というシンプルなデザインですが、素材の違いをいかした服をつくりたいです。

Image



当初のイメージとの比較

ウール生地では、ジャカードで模様をつけてもらいましたが、春夏の生地は薄地であるため、秋冬の生地比べて模様の出方が弱いということを知りました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

ウール、麻混用生地では、2色の糸で織ると、どのような色になるか最終的な色をイメージすることが難しく、糸の色を決める時にすごく悩みました。また「肌に触れる」ということに重点をおき、肌触り、質感にこだわった生地を考える大切さを、匠の方からのアドバイスしていただき、着心地のいい生地に仕上げる事が出来たと思います。

■協力／茶仙染工(株)、戸崎毛織、(株)ソトー、川出毛織



■混用率／W 51, Li 46, R 2, N 1

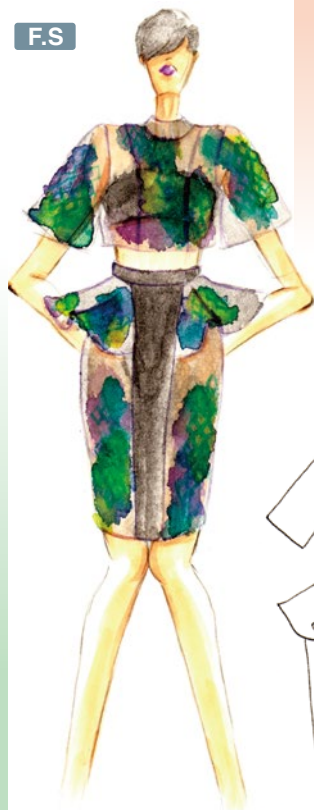


■混用率／W 100

タイトル

[snake]

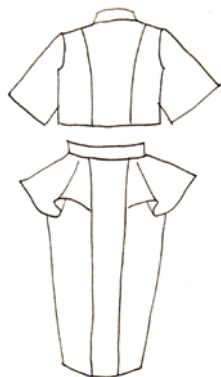
F.S



Image



B.S



当初のイメージとの比較

当初は透け感が大分ある素材の予定でしたが、尾州産地のウールを使用することであたかみのある素材に仕上がりました。透けることで柄を浮かび上がらせる予定でしたが、黒いテープを織り込んで柄を出すことでおもしろい出来上がりになりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

生地が出来るまでの1つ1つの工程を丁寧に見学させて頂いたので、とても勉強になりました。

■協力／東和毛織(株)、丸清燃糸、ウカイ見本、
(有)カナーレ、岩田工房、(株)ソトー



■混用率／W 100



■混用率／W 55, N 45

タイトル

【無機質】

F.S

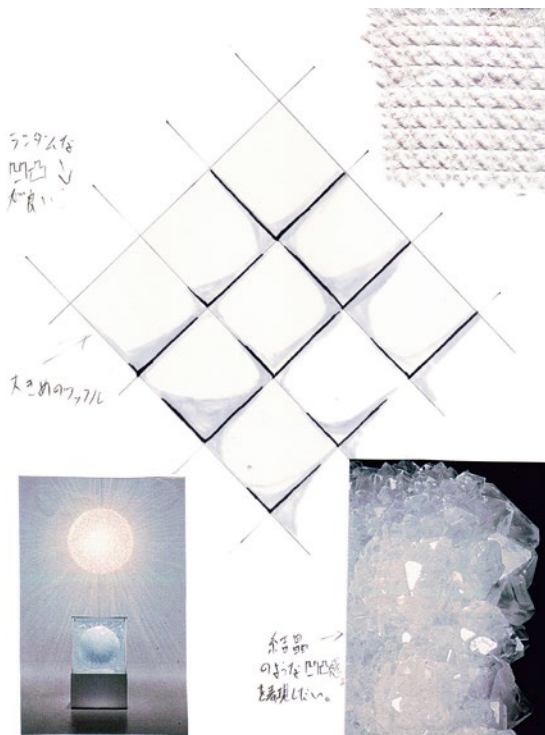


製作にあたって

無機質が集まって結晶へと成長していく過程を表現したいです。・白系の色。・少し毛羽のある感じ。・大きめのワッフル。・不規則な凹凸。やわらかな風合。・離れて見ても若干の凹凸がわかる感じ。地の目の変化による凹凸の見え方で一様な結晶を表現。

Image

B.S

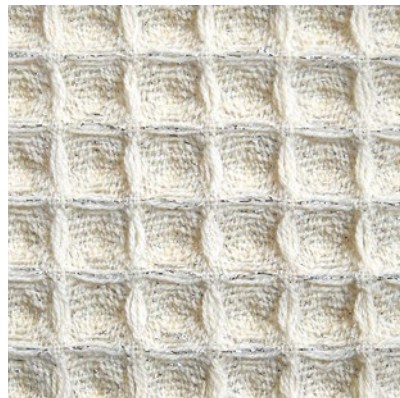


当初のイメージとの比較

当初のイメージより生成り色が強く、フェミニンな印象の仕上がりになりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

イメージを匠の講師と共有するまでが苦労しましたが、サンプルの生地を見つけてからは自分の知らない技術や知識など様々なアドバイスを頂きとても勉強になりました。



タイトル

【花畑】

F.S



製作にあたって

明るく春らしい印象にする為に、絵本に描かれる抽象的な花畑をイメージし、全体的に柔らかかでぼんやりした柄をデザインしました。尾州産地の特徴を活かすため、素材は毛のアムンゼンやジョーゼットのような梨地織物を使用したいです。柔らかくしなやかで、ドレープ性のある素材は、春に着たくるような、軽やかなワンピースドレスにぴったりだと思いました。また、毛で作ることによってあたたかさや肌触りの良さも加え、「気分は春だけど、まだ風が冷たい」といった春先にも身につけやすい素材にしたいです。糸は柔らかな梳毛(100番手以上)を使用したいです。染めは不規則な柄なので後染め(捺染)がふさわしいと思います。こだわりたいのは「柔らかさ」と「肌触りの良さ」です。梨地織物特有の表面のざらざらした触り心地をそのままに、ずっと触っていたくなるような素材を作りたいです。

Image

B.S



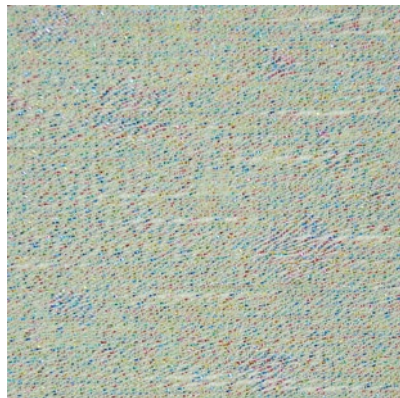
当初のイメージとの比較

当初のイメージよりも色数が多く、細かく仕上がりました。また、組織を変えることで模様を入れていただき、立体感のある素材になりました。予想よりもハリがでしたが、触り心地がとても良く仕上がりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

はじめて見るもの、聞く言葉ばかりで学ぶことばかりでした。たくさんの工場を見せて頂き、生地1枚にこんなに多くの人や機械が関わっているのだと実感し、感動しました。写真や資料だけでは知ることのできない世界を実際に見て触れることができた素晴らしい機会になりました。

■協力/森保染色(株)、丸清燃系、(有)アサヒ紋工所、
万平(株)、三星染整(株)



■W 54, C 26, N 12.5, E7.5

タイトル

【金星の雲】

-Cloud of Venus-

F.S

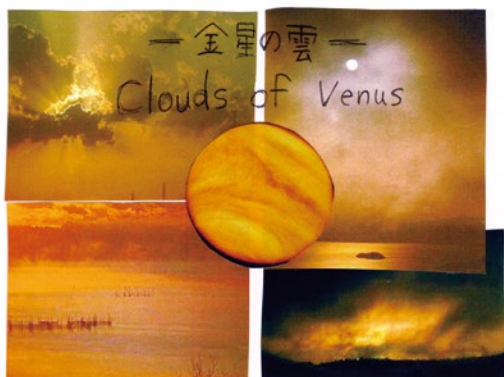


製作にあたって

全体は黄色や茶色の太い糸や細い糸がムラになったように織られています。所々に毛羽立った白い糸を織りに入れます。等間隔でラメ糸が入ります。金色の不思議な感じを出すため、経糸や緯糸をうねらせる。なんとなくチェックに見える感じ、もやがかかって、ふわふわしたイメージの素材を作りたいです。

Image

B.S

〈淡い
チェック〉

グラデーション

毛羽立った白い糸

ラメ糸

太い糸・細い糸

↑
うねる

当初のイメージとの比較

金星の雲のフワフワとした感じをだしたかったのですが、製品をメンズのスーツと設定したので、紳士服地として成立するようになるとやはりイメージとは異なる仕上がりになりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

イメージの色をだすのにどんな色の糸を組み合わせるのかや、組織と織機の関係など、色んな事を考慮し製作するのがむずかしいと思いました。

■協力／東和毛織(株)、(株)KANDA、丸清撚糸、森保染色(株)、四葉織房、(株)ソー



■混用率／W 96, Ca 3, N 1

タイトル

【春が来た!】

F.S



製作にあたって

「蜂」の黄と黒(焦げ茶)のボーダーの可愛さを表現したいです。黄色の生地にはボーダーのオパール加工を施し、その上から蜂を連想させるようなラメ加工をしたいです。または、黄の糸とラメ糸を一緒に織ってから、オパール加工をして、ラメが入ったボーダーの生地にしたいです。そして黒の生地も同じく加工、またはラメ糸と一緒に織り、黄の生地の下に重ねて使用することにより蜂のボーダーを表現したいです。生地自体はできるだけ薄く軽いもので、できあがりにはふわっとした印象を持たせるようにしたいです。ギャザーを多く使用するので、そこに生じる凹凸を利用しラメを目立たせ、全体を輝かせたいです。可愛さ、軽さ、春っぽさが伝わってくるような生地を作りたいです。「蜂」柄なので、デザインとテーマが生地の表情、雰囲気がないと繋がらないものになっています。全て(生地、デザイン、シルエット、技法)が1つのテーマでつながり、春を運んでくるような可愛くて、爽やかな服を作りたいです。

Image

B.S



当初のイメージとの比較

春らしく、軽く、うすく、蜂らしく蜜のテラテラ感、美しさをイメージしていました。実際の素材はそのイメージに凄く合っていて、そこにプラスして可愛さもあったのでとても嬉しかったです。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

元々オパール加工も使用する予定でしたが、キレイに丸として加工する場合の生地の耐久性の落ち具合など、本当に新たな発見でした。知識の大切さを本当に学びました。



■混用率/C 83.6, W 12.6, ラメ3.8



■混用率/C 96.3, ラメ 3.7



■混用率/C 96.3, ラメ 3.7



■混用率/C 85.1, W 7.5 ラメ 7.4

■協力/石慶毛織(株)、時田毛織(株)、渡彦毛織(資)

タイトル

[泡沫]

F.S



製作にあたって

ウールは見た目にもあたたかく、手の平で触ると、とても手触りがよく気持ちがいいのに、皮膚の薄い素肌では刺激を感じてしまい、ウールを着るときは下に何か1枚着なくてはならないウールをととても勿体無く思いました。そこで手の平で感じるようなやわらかさを素肌でも感じられたらと3つのことに重点を絞りました。・肌に直接触れても気持ちが良いこと。・天然素材のもつ暖かさや風合、通気性の良さを活かすこと。・「泡沫」をイメージさせる軽さがあること。テーマの泡沫、泡のやわらかい肌触りと、ぽこぽここと丸く立体的な表面をうまく活用したいです。

B.S



Image

・肌触りのせいで、肌の弱い人でも
チクチクとしない感じがよく、ストレスフリー
で着られる。

・テーマの泡沫(うたがた)をイメージして
モコモコと伸縮性のある素材。

・ウレタン加工がされており、見た目にそ
っくりいれたいとイメージしています。

・素材がウレタン加工



泡沫(うたがた)

泡沫をテーマに、モコモコ
とした素材をほかにめのラッパ
ンピースをデザインしました。
色合いも、ラッパンをイメージして薄いグ
レーと淡いブルーを混ぜ合わせに作り
あげ、透明感のある色合いに
したいと思っています。
一枚ずつ、レイアウトして着られる
ワンピースです。

当初のイメージとの比較

初めに私がイメージしていた通りに仕上がって、とてもうれしく思っています。生地のぽこぽこした感じや、手触りなども私の考えを忠実に汲み取っていたので、とても感謝しています。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

ウールについてはほぼ無知でしたが、今回翔工房に参加させて頂き、ウールの毛が糸になり織られ、生地になる過程を間近で見学し、とても勉強になりました。



■混用率/W 55, Si 35, C 10



■混用率/Si 80, C 20

タイトル

【光につつまれる】

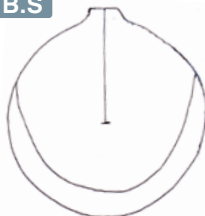
F.S



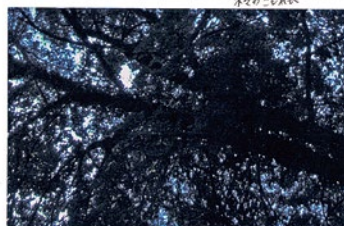
製作にあたって

木々の木漏れ日や雪にキラキラ反射して辺りが一面に包まれるものをモチーフにして、森の中で光に包まれる心地よさを表現したいです。尾州産地のウールを使用し寒さから守るしなやかな素材で作る冬のワンピースです。2枚のテキスタイルを重ねることにより、人の動作で服が揺れてテキスタイルの表情が変化し、木々の木漏れ日の様子、光がキラキラする様子を表します。一番上に重なる雪色のテキスタイルは細めの光沢のある糸で編み、かさばるとモコモコしないサラサラとした仕上を目指します。下に使用するテキスタイルは二重織で森の木漏れ日を表し、深くて暖かな紺色をベースにネップが入った糸を使用し、ナチュラルで複雑な風合を出したいと思います。また、ウールにネップ麻を入れることでウールと違う表情を組み合わせ、より複雑にし仕上のときに木々の模様の所を圧縮させて、ウールにしかできない表面の凸凹を出したいです。それにより、木々の木漏れ日、手触りの面白いテキスタイルを製作したいです。

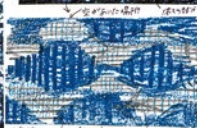
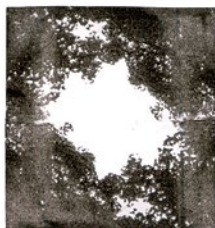
B.S



Image



これは私の制作した
ビニール袋のつくりか
と、森の光のイメージ
を参考に、熱加工で
おてを加工した。
この模様をテキスタイル
にさせてみた。
イメージは雪だ。



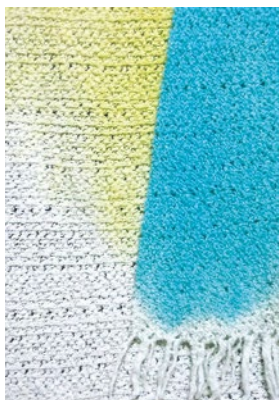
当初のイメージとの比較

私がつくりたかったプラスチックの素材の模様を表現できたと思います。素材の着心地をもって考えていくべきでしたが、おもしろい色や形になったと思っています。

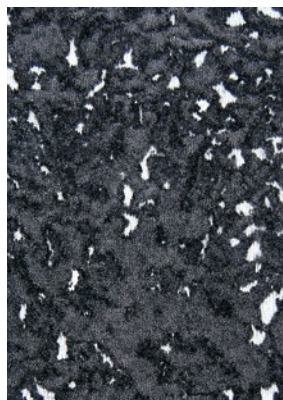
新たな発見や学んだ点、苦労した点

生地をつくることはたくさんの人の力、仕事が必要であることを発見し、真夏に工場に働く職人たちの姿を見て糸・布をもっと大切にしようと思いました。

■協力／三幸毛糸紡績(株)、豊田撚糸(株)、
(有)織重、日本化繊(株)、山勝染工(株)、
川村ニット(株)



■混用率／W 80, N 20



■混用率／W 95, N 5

タイトル

【炊きたてのふかふかごはん】

F.S



B.S



大きな
ポケットも
ついています。



Image



当初のイメージとの比較

最初は、模様の一つ一つを、お米の楕円形にしたかったのですが、織物で円を織るといのは難しいということで、炊きたてのごはんのふかふかなイメージを表現することを重視しました。素材感や風合いを大事にしたあたたかみのある織物にすることができたと思います。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

使用したい糸があっても、織物にした時に、どのくらいの重さになるか、それを服に仕立てた時に服として成立するかなどを考えるのが難しかったです。糸の束を並んで置いたものと図案書を見比べつつ、デザインをすり合わせをしていって、それが実際に織られたのを見て感動しました。

■協力／東和毛織(株)、一陽染工(株)、ワコートク染(株)、丸清然糸、小川見本、富文毛織(株)、今賢、(株)タグチ、(株)ソトー、門倉加工技研



■混用率／W 58, N 17, Ac 25



学生のアイデア×匠の技



公益財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター

www.fdc138.com/fashion/seminar/syo/